

2024

令和6年8月23日

第26号

(通算131号)

IBARAKI Prefectural Junior College of Industrial Technology

# IT短大VIEW!

2026年、県立短大は「大学校」に変わります。



## 1 高校生がインターンシップ①



課題解決に取り組む高校生

8月22日(木)、「いばらきP-TECH」の参加校である水戸第三高校の二年生2人が、本校で1dayインターンシップを行いました。

本校では、次代を担うITエンジニアを育成しています。今回のインターンシップでは、生成AIの体験、アプリ開発におけるセキュリティ対策や、システム開発における課題解決について、実践的な体験を行いました。

参加した高校生からは、「ブレインストーミングで、様々なアイデアを出し合いながら、課題を解決する実践が参考になった」、「ある事象を体系的に整理し、道筋を立てて結論を導き出すロジカルシンキングが参考になりました」などと嬉しそうに話していました。

担当した落合先生は「ITエンジニアは勿論のこと、様々な分野に活用できる内容でした。今後の学びに大いに役立てて欲しい」と話していました。



生成AIを体験する 高校生

## 2 雑草に負けるな校内美化!

草刈り機で切っても、また伸びてくる雑草。「雑草魂」とはよく言われますが、夏の炎天下でも雑草は勢いよく伸びています。雑草に負けることなく、学内の緑地帯の雑草は定期的に除草活動を行い、校内美化に勤めています。



## 3 『記事トレ』紹介



本校では、IT専門力に加え社会人基礎力の向上のため『記事トレ』を実施しています。新聞を読み、要約とIT技術者としての感想を書くトレーニングを通して読み解く力を育成します。

<記事トレ>茨城新聞(2024年8月23日)

### サイバー防犯 競技会

高大生、知識・技術生かす

#### ●土肥綺音さん(中央高卒)

◇要約: 地域社会のサイバーセキュリティ意識向上を図ろうと、県警は22日、コンピュータに関する知識や技術を競う競技会を県警本部で開催した。

サイバーセキュリティ企業の大手、ラックが作成した実際の犯罪手口を想定した問題に挑戦した。

◇感想: 茨城県警が主催したサイバーセキュリティ競技会では、高校生や大学生が犯罪手口を想定した問題に挑戦し、楽しみながらサイバーセキュリティについて学んでいた。若い世代がIT技術者として成長するための貴重な経験になると思った。

#### ●吉田星那さん(下館一高卒)

◇感想: 現在、多くの高校生や大学生がITに関わっており、今後はもっとITが進展していくと考えられる。

この大会は、協力して課題解決に取り組むもので、コミュニケーションをとって行動することが大切だと思った。

#### ●大内沙月さん(水戸商高卒)

◇感想: 警察の方は、サイバー犯罪情勢は深刻化していると話す。

私たちIT短大の学生は、IT技術への理解を日々深めていき、インターネットによる被害のない社会となるよう、知識と経験を積み重ねていこうと思う。

#### ●田畑 潤さん(鹿島高卒)

◇感想: チームで協力して実際の犯罪手口を想定した問題を解決する取り組みは、実際の仕事に限りなく近いケースであり良いと思う。このようなイベントを機に一般の人のセキュリティ意識が高まってくれるといいと思った。

#### ●平田柚子さん(石岡商高卒)

◇感想: サイバーセキュリティの問題に挑戦した学生たちは、チームワークとコミュニケーションを取りながら問題解決に取り組んだ。とても良い経験となったと思う。

私たちを含め、サイバー犯罪を取り締まるセキュリティエンジニアの未来は明るいと思った。



茨城県立産業技術短期大学校

URL <http://www.ibaraki-it.ac.jp/>

E-mail: [kyoumu@ibaraki-it.ac.jp](mailto:kyoumu@ibaraki-it.ac.jp)



〒311-1131

茨城県水戸市下大野町6342

電話029-269-5500